

【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関などの連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人教育や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。			
4	担当課	主担当課 (記入者)	部 名	課 名	課長名
			市民文化部	文化振興課	庄田 哲也
		関連課	社会教育振興課、中央図書館		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-1-1	生涯学習推進体制の整備		
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進		
		3-1-3	成人教育の推進		
		3-1-4	公民館活動の推進		
		3-1-5	図書館サービスの充実		

2 H27年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(施策の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)					
<p>生涯学習について、きらめき講座等やホール事業などの実施により、学習機会を幅広い層へ展開することができ、多くの利用がありました。 また、出前講座の受講者数は、ここ数年増加傾向にあることから、市民の学習意欲の向上が図られたと評価しています。今後も生涯学習の意義や必要性の周知に努め、学習活動を支援します。 そして、インターネットによるきらめき講座電子申込を実施するなど、ICTを活用した学習情報の収集・発信に努めました。今後も多くの媒体を活用し、より積極的な市民の主体的な生涯学習活動を促すため、情報提供の充実に努める必要があります。</p> <p>さらに、天文観覧室(プラネタリウム)の利用人数が減となっていることから、引き続き、市ホームページやフェイスブックを活用し情報発信する等、天文観覧室の利用促進に努め、自然科学について興味を持てるよう促します。</p>					
2	<p>成人教育、公民館事業の推進について、識字・日本語教室や青年による人権啓発事業、講習会等を実施するとともに、各公民館で地域住民のニーズに対応した、各種講座等を実施し、多くの方に受講いただきました。今後も多様な学習内容や実施方法を検討し、事業の更なる充実を図る必要があります。また、現代的課題、地域課題の解決に向けた取り組みについて、公民館長会議等で説明を行い、理解を深めることができました。今後も事業の実施に向けた取り組みを進めていく必要があります。</p> <p>図書館については、図書館資料を体系的に収集し、適切に管理・保存して、資料・情報の提供に努めるとともに、ICタグシステムの導入による資料管理の効率化、ホームページの充実、Wi-Fi環境の整備、館内インターネット端末の拡充で、利便性の向上を図りました。 また、子どもの読書活動推進のために、学校と連携した団体貸出や調べ学習の相談対応、保護者向けの講座等を開催しました。 今後も継続して、市民の暮らしに役立つ魅力ある図書館として、図書館サービス及び資料の整備充実を図る必要があります。</p>				

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

3 H28年度の施策の進め方

生涯学習推進体制の整備については、庁内関係各課と連携することにより、生涯学習施策の現状把握と課題解決に努め、生涯学習の推進を図ります。

また、全庁的な生涯学習情報について、情報を集約し、分野別に整理し、インターネットで総合的に情報発信することにより、市民の求める情報提供の拡充を図り、生涯学習の普及啓発の推進に努めます。

今後も出前講座を実施し、生涯学習の意義や必要性の周知に努め、生涯学習に関心を持つ市民を増やします。

そして、天文観覧室(プラネタリウム)の活用については、併設の中条図書館と連携し、館内に天文に関する資料を設置します。また、ふるさと納税の返礼品として、貸切鑑賞券を出品するなど、プラネタリウムのPRに努めます。

成人教育、公民館事業の推進については、引き続き、識字・日本語教室や青年による人権啓発事業、講座・講習会等を実施するとともに、他市の取り組み状況など積極的な情報収集に努め、他部署との連携による効果的な事業の実施に努めます。

また、現代的課題、地域課題に対応した事業の実施について、子ども読書活動推進計画に基づく読み聞かせを年次的に各公民館で実施できるよう進めるとともに、歴史や消費者教育など地域の状況に合わせた事業の実施に努めます。

図書館については、継続して必要な資料を収集・整理・保存して、市民に資料及び情報を提供します。また、ボランティアとの協働により事業・行事等を行い、より多くの市民が本と出会う機会の充実を図ります。

子どもの読書活動推進については、本の楽しさに気づくことができるよう、学校等と連携を図り、さまざまな取り組みを行います。さらに、市民の利便性向上のため、北摂地区での公共図書館の広域利用について関係市町と調整を進めます。

4 今後の進め方

H29年度以降の施策の方向性																		
1	<p>生涯学習センターは本市の生涯学習の中核であることから、時代の変遷による市民ニーズを汲み取り、主催講座を充実させていきます。そのために、大学や他市と連携しながらより魅力的な講座の企画をし、多様な生涯学習の機会を提供し、市民の生涯学習への参加を図ります。</p> <p>また、今後も市民の意識・ニーズを十分踏まえたうえで、生涯学習を推進することが求められています。</p> <p>そして、天文観覧室(プラネタリウム)の活用については、一般投影・学習投影のプログラムの新規企画の検討や、市ホームページ・フェイスブックを効果的に活用し、本市の特徴ある施設として、情報発信に努め、自然科学について興味を持てるよう促します。</p> <p>成人教育、公民館事業については、これまで取り組んできた講座・講習会等の各事業について、多様な学習ニーズ、社会情勢を踏まえ、精査及び更なる充実を図り、地域社会の連帯や豊かな人間性を育む学習機会の提供が図れるよう事業内容を検討します。</p> <p>また、各公民館において、公民館長会議等での意見交換を活用し、地域の課題の掘り起こしに努め、子どもの読書活動推進計画に基づく読み聞かせや現代的課題、地域課題に対応した事業の実施に努めます。</p> <p>図書館については、市民の自主的な学習活動を支え、促進する「知の拠点」として、継続して資料を収集・整理・保存するとともに、読書案内・相談やさまざまな企画を通じて本(情報)との出会いを提供し、「本が好きなまち・茨木」をめざします。また、市民の利便性向上のため、北摂地区での公共図書館の広域利用について29年度内実施に向けて協議を進めます。さらに、時代と共に変化するICTの活用を検討します。</p>																	
2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H29年度以降の行財政改革の推進</th> <th>該当する主な行革指針の具体的項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2"> <p>生涯学習センターについては、サービスの多様化と経費削減の効果も含め、施設のあり方・方向性を検討します。</p> <p>また、成人教育、公民館については、事業の会場変更や出前講座の講師を活用するなど経費節減に努めます。</p> <p>これまでの住民ニーズ即した社会教育としての文化や教養、スポーツなどの取り組みに加え、現代的課題、地域課題に対する取り組みを進めるとともに、講座等の実施にあたり、類似事業等と整理・統合について検討を行うとともに、各課と連携し、効果的な事業推進を図ります。</p> </td> <td>1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進</td> </tr> <tr> <td>2-2 事務事業の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目	<p>生涯学習センターについては、サービスの多様化と経費削減の効果も含め、施設のあり方・方向性を検討します。</p> <p>また、成人教育、公民館については、事業の会場変更や出前講座の講師を活用するなど経費節減に努めます。</p> <p>これまでの住民ニーズ即した社会教育としての文化や教養、スポーツなどの取り組みに加え、現代的課題、地域課題に対する取り組みを進めるとともに、講座等の実施にあたり、類似事業等と整理・統合について検討を行うとともに、各課と連携し、効果的な事業推進を図ります。</p>	1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進	2-2 事務事業の見直し												
H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目																	
<p>生涯学習センターについては、サービスの多様化と経費削減の効果も含め、施設のあり方・方向性を検討します。</p> <p>また、成人教育、公民館については、事業の会場変更や出前講座の講師を活用するなど経費節減に努めます。</p> <p>これまでの住民ニーズ即した社会教育としての文化や教養、スポーツなどの取り組みに加え、現代的課題、地域課題に対する取り組みを進めるとともに、講座等の実施にあたり、類似事業等と整理・統合について検討を行うとともに、各課と連携し、効果的な事業推進を図ります。</p>	1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進																	
	2-2 事務事業の見直し																	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

5 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也	
3	関係課							
4	目標 (前期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。						
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内容				
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)					
		b	生涯学習センターきらめき講座等やホール事業、また大学との共催による講座を実施するなど、生涯学習センターを中核として生涯学習の場や機会を提供し、センターの利用者数は前年度と比較して増加しています。 しかしながら、センター主催講座の受講生がほぼ横ばいであることから、今後、センター主催講座内容についての評価及び市民の学習活動に関する実態、ニーズの把握をする必要があります。 また、天文観覧室(プラネタリウム)は、市ホームページやフェイスブックを活用し情報発信する等、天文観覧室の利用促進に努めました。					
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						H26年度	H27年度	
		生涯学習センター利用者数		人	↗	233,873	244,342	245,000(H31)
生涯学習センターきらめき講座、ジュニア講座受講者数		人	↗	2,610	2,575	2,690(H31)		
天文観覧室(プラネタリウム)利用者数		人	↗	14,045	13,534	14,500(H31)		

1	取組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也	
3	関係課							
4	目標 (前期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながると多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。						
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内容				
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)					
		b	平成27年度の出前講座の受講者数は、ここ数年増加傾向にあることから、市民の学習意欲の向上が図られたと評価しています。引き続き目標達成に向けて、生涯学習の意義や必要性の周知に努め、学習活動を支援します。 またインターネットによるきらめき講座電子申込を実施するなど、ICTを活用した学習情報の収集・発信に努めました。今後もより多くの媒体を活用し、市民の皆様が知りたい情報をタイムリーに提供することが必要です。					
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						H26年度	H27年度	
		出前講座受講者数		人	↗	66,466	71,731	75,000(H31)
きらめき講座電子申込件数		件	↗	410	377	430(H31)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-3	成人教育の推進					
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	辻田 新一	
3	関係課							
4	目標 (前期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。						
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内容				
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)					
		a	多様な学習ニーズの把握に努めるとともに、自発的・主体的な学習活動や社会参加の促進を図るため、識字日本語教室や各種講習会等を実施し、また、現代的課題を人権の視点で考える機会として、青年による人権啓発事業を実施することにより、地域社会における連帯感、人権意識の向上に寄与することが出来ました。					
			今後、住民の多様化する学習ニーズを把握するため情報収集を行い、既存の枠組みにとらわれない多様な学習内容や実施手法を検討し、事業の更なる充実を図る必要があります。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度		
			成人教育関連講習講座の参加者数	人	↗	829	1103	1,055(H31)

1	取組	3-1-4	公民館活動の推進					
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	辻田 新一	
3	関係課							
4	目標 (前期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。						
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内容				
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)					
		b	地域住民のニーズに対応した各種講座等を実施し、多くの方に受講いただき、今後もこのような社会教育の場を提供し、住民の主体的な学習活動を支援する必要があります。また、現代的課題、地域課題の解決に向けた事業の取り組みについて、公民館長会議等で説明を行い、理解を深めるとともに、次年度以降への取り組みに向けて、自発的に検討を行っていただくことができ、今後も社会教育を通じて地域コミュニティの形成を図り、地域の絆を深めるために、事業の実施に向けた取り組みを進めていく必要があります。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度		
			小学校区公民館講座受講者数	人	↗	2,743	2,671	3028(H31)
	小学校区公民館講座等開講数	講座等	↗	401	409	420(H31)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	川上 成人
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内容			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	図書館資料を体系的に収集し、適切に管理・保存して、資料・情報の提供に努めるとともに、ICタグシステムの導入による資料管理の効率化、ホームページの充実、Wi-Fi環境の整備、館内インターネット端末の拡充で、利便性の向上を図りました。 子どもの読書活動推進のために、学校と連携した団体貸出や調べ学習の相談対応、保護者向けの講座等を開催しました。 今後も継続して、市民の暮らしに役立つ魅力ある図書館として、図書館サービス及び資料の整備充実を図る必要があります。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		資料貸出点数	点	↗	3,680,635	3,580,539	4,088,000(H31)
蔵書冊数(書架容量等に応じた適切な蔵書構成)	冊	→	1,194,169	1,224,110	1,234,000(H31)		

6 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～5に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する
2	学識経験者	立命館大学経営学部 肥塚 浩 教授	
3	意見等	<ul style="list-style-type: none"> 「施策の現状と課題」において現状認識と課題設定は概ね適切になされており、一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 なお、総合評価の評価理由、平成28年度の施策の進め方、平成29年度以降の施策の方向性、平成29年度以降の行財政改革の推進の記述の表現は分かりやすい。 取組3-1-1の参考指標「天文観覧室利用者数」、取組3-1-2の参考指標「きらめき講座電子申込件数」、取組3-1-4の参考指標「小学校区公民館講座受講者数」、取組3-1-5の参考指標「資料貸出数」はいずれも平成27年度の実績値が前年度より悪いが、評価理由においてそのことの指摘と今後の課題が明記されていないのは不十分である。 	

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等を開催するとともに、各自の興味や年齢、体力、技能等に応じて、誰もが気軽に生涯スポーツに親しむことができる環境を整えます。また、本市のスポーツ推進に関する取組の基本となる計画を策定します。 地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークを構築します。			
4	担当課	主担当課 (記入者)	部 名	課 名	課長名
			市民文化部	スポーツ推進課	牧原 博孝
		関連課			
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進		
		3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成		

2 H27年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(施策の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)					
<p>少子高齢化が進展する中で、子どもから高齢者まで、多様な世代が健康で豊かな人生を送るため、スポーツへの関心が高まっており、平成28年にはリオデジャネイロで、32年には東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることなどを背景に、ますますその傾向は強まっていくものと考えられます。</p> <p>しかし、一方では、働き世代や子育て世代の中には、仕事や家事、育児などで忙しく、スポーツに取り組めていない人も多い状況にあります。</p> <p>2 市やスポーツ施設の指定管理者、総合型地域スポーツクラブは、市民がスポーツに取り組む機会を設けるため、スポーツ教室・サークル活動を実施していますが、スポーツに関心の低い市民には運動やスポーツの重要性を理解し、興味を持つよう働きかけるとともに、気軽に運動やスポーツに取り組むことができる環境を整備することやスポーツを支える人材を増やしていくことが必要です。</p> <p>スポーツ施設については老朽化している状況もあることから、状況を把握しながら、適切に維持管理を行うとともに、高齢者や障害者が利用しやすくなるよう、施設や設備の利便性の向上を図る必要があります。</p> <p>このような状況の中、平成28年3月に、本市のスポーツに関する施策を体系的・効果的に推進するため、平成28年度から37年度までを計画期間とする「茨木市スポーツ推進計画」を策定しました。</p>					

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

3 H28年度の施策の進め方

平成28年3月に策定した「茨木市スポーツ推進計画」に基づき、市民の健康増進・生きがいづくりにつながる生涯スポーツを推進するとともに、多様な団体や指導者の育成によるスポーツ環境の充実を図ります。

実施する具体的な事業は、次のとおりです。

- 市民がスポーツに親しむきっかけや参加機会を充実するため、小学生を対象とした球技の体験イベント、高齢者を対象とした体力測定、ニュースポーツ大会やウォーキング講座を実施します。
- 障害者スポーツの推進を図るとともに、障害のある人とない人の交流を図るため、スポーツ交流会を実施します。
- 市民が主体となって取り組む地域スポーツを推進するため、市の広報誌やホームページにおいて市内の2つの総合型地域スポーツクラブの情報発信を行い、認知度の向上を図ります。
- スポーツ関係団体との連携によるイベント等の開催に向け、スポーツ関係団体との連携を図ります。

4 今後の進め方

H29年度以降の施策の方向性										
1	<p>平成28年度に引き続き、「茨木市スポーツ推進計画」の基本目標に沿って、市民の健康増進・生きがいづくりにつながる生涯スポーツを推進するとともに、多様な団体や指導者の育成によるスポーツ環境の充実を図ります。</p> <p>基本目標における具体的な施策の方向性としては、1つ目の基本目標「健康増進・生きがいづくりにつながる生涯スポーツの推進」においては、東京オリンピック・パラリンピックに向けたスポーツへの関心の高まりを背景に、多様な生涯スポーツの普及・啓発を図り、子どもから高齢者まで、あらゆる世代や障害者のスポーツを推進するとともに、既存の施設の有効活用を基本に、スポーツ施設の適切な維持管理と充実に努めます。</p> <p>また、2つ目の基本目標「多様な団体や指導者の育成によるスポーツ環境の充実」においては、地域スポーツの推進やスポーツを支える人材の育成・支援を図り、連携・協働による生涯スポーツの活性化を目指します。</p>									
2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H29年度以降の行財政改革の推進</th> <th>該当する主な行革指針の具体的項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6"> <p>スポーツ関係団体等と連携し、イベントやスポーツ教室等の実施に取り組みます。</p> <p>また、スポーツ関係団体や地域におけるスポーツ活動を支える人材を育成するとともに、互いに協力し合えるネットワークの構築を目指します。</p> <p>スポーツ施設については、既存の施設の有効活用を図ります。</p> </td> <td>1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進</td> </tr> <tr> <td>1-2 指定管理者制度の適正な運用</td> </tr> <tr> <td>2-5 公共施設等の適正管理と有効活用</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table>	H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目	<p>スポーツ関係団体等と連携し、イベントやスポーツ教室等の実施に取り組みます。</p> <p>また、スポーツ関係団体や地域におけるスポーツ活動を支える人材を育成するとともに、互いに協力し合えるネットワークの構築を目指します。</p> <p>スポーツ施設については、既存の施設の有効活用を図ります。</p>	1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進	1-2 指定管理者制度の適正な運用	2-5 公共施設等の適正管理と有効活用			
H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目									
<p>スポーツ関係団体等と連携し、イベントやスポーツ教室等の実施に取り組みます。</p> <p>また、スポーツ関係団体や地域におけるスポーツ活動を支える人材を育成するとともに、互いに協力し合えるネットワークの構築を目指します。</p> <p>スポーツ施設については、既存の施設の有効活用を図ります。</p>	1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進									
	1-2 指定管理者制度の適正な運用									
	2-5 公共施設等の適正管理と有効活用									

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

5 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	牧原 博孝
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、いつでもどこでも気軽に参加できるよう、健康増進・生きがいつくりのイベント、スポーツ教室等が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内容			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	近年、明るく豊かで活力ある生活づくりや心身の健康の保持・増進を目的として、スポーツ・レクリエーション等に取り組む人が増加しており、市や総合型地域スポーツクラブがスポーツ教室・サークル活動を実施しています。身近な場所でスポーツ活動に取り組むことができる環境を整備する必要があります。また、本市のスポーツに関する施策を体系的・効果的に推進するため、「茨木市スポーツ推進計画」を策定しました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		各市民体育館稼働率	%	↗	79.4	82	82.8(H28)
市民プール利用者数(夏期を除く)	人	↗	128,706	111,102	124,749(H28)		
市民総合スポーツ大会参加者数	人	↗	13,291	13,694	13,968(H28)		

1	取組	3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	牧原 博孝
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体や地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークが構築されています。幅広い世代の人々が、生涯を通してスポーツを気軽に楽しめる機会を提供する総合型地域スポーツクラブが活発に活動しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内容			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	高齢者の増加や近年の健康志向の高まりから、スポーツを身近なものとして多くの市民が気軽に参加できる環境が求められています。その環境づくりのため、スポーツ指導者の登録者数、総合型地域スポーツクラブの会員数及びスポーツ指導者講習・研修会の参加者数を増加させていく必要があります。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		総合型地域スポーツクラブの会員数	人	↗	1,258	1,473	2,000(H37)
スポーツ指導者講習・研修会参加者数	人	↗	113	82	107(H28)		
スポーツの指導者の登録者数(実施予定)	人	↗	-	-	100(H37)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

6 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～5に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する
2	学識経験者	立命館大学経営学部 肥塚 浩 教授	
3	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」において現状認識と課題設定は概ね適切になされており、一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・取組3-2-1-1の参考指標「市民プール利用者数」、取組3-2-2の参考指標「スポーツ指導者講習・研修会参加者数」は平成27年度は前年度より減少しているが、評価においてその記載がなく、どのような課題があるのか、一過性のことなのか、特段の事情があるのか不明である。 ・平成29年度以降の行財政改革の推進の説明と、具体的項目とのつながりが不明確なため、分かりやすい表現を心がけていただきたい。 	

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します。			
4	担当課	主担当課 (記入者)	部 名	課 名	課長名
			市民文化部	文化振興課	庄田 哲也
		関連課	まち魅力発信課、社会教育振興課、中央図書館		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり		
		3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり		
		3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成		
		3-3-4	★歴史遺産の保存・継承		
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成		

2 H27年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。</p> <p>B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。</p> <p>C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。</p> <p>D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(施策の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)					
<p>協働による文化のまちづくりを進めるため、提案公募型公益活動支援事業補助の予算を拡充し、採択件数が平成26年度の2件から7件に増加したほか、茨木市文化芸術推進市民会議を開催し、市民及び文化関係団体、大学等が協働で文化振興ビジョンを推進する基盤づくりができるなど、市民の主体的な文化活動や交流は盛んになっています。</p> <p>文化芸術の「場」づくりとして、文化施設等の修繕等を適宜行うほか、市民会館閉館に伴って、市内公共施設や立命館いばらきフューチャープラザの活用を案内・周知しました。市民ギャラリーには34,485人の来場が、また、文化振興イベントには19,066人の参加があったことから、鑑賞等の機会は充実しています。</p> <p>未来へ向けた文化芸術の担い手の育成としては、「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」を開催し、若手芸術家の育成に努めました。川端康成文学館俳句コンクールの学生応募者数は、俳人・坪内稔典氏を講師に迎えたことによって、平成26年度の722件から平成27年度の1,381件に増加しました。このように次世代の文化芸術の担い手となる若者の育成は進んでいます。</p> <p>歴史遺産の保存・継承として、市民のみなさんが文化財に親しみ、理解してもらうため、文化財資料館ではテーマ展など公開事業等を通じて啓発に取り組み、見学者数が増加しました。文化財は公開と保存のバランスも必要であることから、キリシタン遺物のうちメダイ8点の高精度複製品を製作し、展示や他市との貸出交流の充実を図りました。また、「隠れキリシタンの里」紹介DVDの英語版も完成し、海外からの来館者への対応も向上しています。史跡指定を目指して調査を継続している千提寺菱ヶ谷遺跡についても、用地を取得し、調査成果についても現地説明会を開催するなどPRに努めました。歴史的建造物調査として市内寺社186件の予備調査を実施し、埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成を進め、その成果に基づく報告書も刊行するなど、保存と活用に向けた事業を展開しました。なお、『新修茨木市史』については、「通史2(近世)、通史3(近現代)」の刊行作業をすすめ、次年度の全巻刊行終了を目指しています。</p> <p>郷土への愛着心とブランド形成については、川端康成文学館開館の30周年を記念して、生誕月記念企画展や市立ギャラリーにおける館藏品展を実施し、本市における文化の特色として川端康成文学館を周知しました。課題としては、年間入場者が平成26年度の8,514人から7,258人に、夏休み企画展の入場者も平成26年度の1,126人から746人に減少していることから、市民及び市内外の方に積極的に周知していくほか、文学館に足を運んでもらえるような魅力的な企画や展示を実施する必要があります。</p>					
2					

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

3 H28年度の施策の進め方

協働による文化のまちづくりを進めるため、提案公募型公益活動支援事業補助の予算を60万円から80万円に拡充し、市民や団体による主体的な文化芸術活動を支援するほか、文化芸術推進市民会議と文化振興施策推進委員会の連携により、文化振興ビジョンを具体的かつ確実に推進するための取組を検討するとともに、市民と芸術をつなぐ人材の育成に努めます。具体的な取組として、文化芸術推進市民会議において、市内の若手芸術家をゲストに招き「HUB-IBARAKI ART PROJECT」の活性化に向けたワークショップを行います。

文化芸術の「場」づくりとして、適宜、文化施設等の修繕等を行うことによって、鑑賞や発表の機会を確保するとともに、市内公共施設の案内や平成28年6月から開始する立命館いばらきフューチャープラザの市民先行予約の活用について周知を行い、市民の文化芸術活動を支援します。また、各種文化振興イベントや「まちなかアートツアー」を実施し、市民が文化芸術活動にふれる機会や芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供します。

未来へ向けた文化芸術の担い手の育成としては、川端康成文学館において、夏休み企画「川端康成って知ってる？」や俳句コンクールを実施するなど、若い世代を対象としたイベントを開催します。本市在住や本市にゆかりのある若手芸術家の更なる活躍を支援するため、若手芸術家育成事業「HUB-IBARAKI ART」については、過去に選定された若手芸術家の中から市内在住の方をフィーチャーし、公共施設等を活用したアートプロジェクトを実施します。

歴史遺産の保存と活用を推進するため、キリシタン遺物のうち「天使讃仰図」「殉教者立像」の高精度複製品を製作し、展示及び他市との貸出交流等により、集客数の増加に努めます。千提寺菱ヶ谷遺跡の調査及び市民開放に向けた園路整備などに取り組めます。市内の歴史的建造物(寺社)調査では前年度実施した予備調査の結果を受け、対象を絞り込んで本調査を実施するほか、埋蔵文化財発掘調査では出土した遺物の整理及び台帳作成等を実施することで、迅速な発掘調査報告書の刊行及び展示公開等への活用に努めます。また、市史編さん事業では索引・年表の刊行と、「全巻発刊記念シンポジウム」を開催するとともに、新規事業として「市史収集史料保存活用事業」を実施して公開に向けた収集史料のデータベース化を進めます。

郷土への愛着心とブランド形成については、川端康成文学館展示室のリニューアルを行い、常設展示及びギャラリーにおいて、魅力的で効果的な展示を行い、集客数の増加に努めます。夏休み企画展についても、川端康成をモチーフにしたプラバン作りやクリアファイルを景品としたクイズを実施するなど、内容の充実を図るとともに、青少年課で実施するイベントでチラシを配布するなど、周知を強化します。

4 今後の進め方

H29年度以降の施策の方向性														
1	<p>協働による文化のまちづくりを進めるため、提案公募型公益活動支援事業補助を柱とし、市民や団体による主体的な文化芸術活動を支援するほか、文化芸術推進市民会議と文化振興施策推進委員会の連携により、文化振興ビジョンを具体的かつ確実に推進する取組を実施するとともに、市民と芸術をつなぐ人材の育成に努めます。</p> <p>文化芸術の「場」づくりとして、適宜、文化施設等の修繕等を行うことによって、鑑賞や発表の機会を確保するとともに、市内公共施設の案内や立命館いばらきフューチャープラザの市民先行予約の活用について周知を行い、市民の文化芸術活動を支援します。各種文化振興イベントや「まちなかアートツアー」を実施し、市民が文化芸術活動にふれる機会や芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供します。</p> <p>未来へ向けた文化芸術の担い手の育成としては、若い世代を対象としたイベントの開催を検討します。また、文化芸術を活用したまちづくりの推進にあたっては、若手芸術家育成の観点から踏まえて検討します。</p> <p>歴史遺産の保存と活用を推進するため、引き続きキリシタン遺物の高精度複製品製作・展示に取り組むほか、千提寺菱ヶ谷遺跡の史跡指定に向けた調査も継続して行い、北部地域の活性化につながる取組を進めます。歴史的建造物(寺社)調査では予備調査の結果に基づき本調査を引き続き実施するほか、埋蔵文化財では出土遺物の整理及び台帳作成を継続的かつ着実に進めることにより、発掘調査結果の活用・発信並びに文化財保護の啓発に努めます。市史収集史料保存活用事業では、編さん過程で収集した資料の活用のためHP等での資料公開を進めるとともに、文献資料を市民が自由に利用できるよう閲覧コーナーの設置を検討します。</p> <p>郷土への愛着心とブランド形成については、川端康成ゆかりの地であることなど、多様な茨木市の文化的な特性をいかした魅力的な取り組みを実施し、市内外に積極的な情報発信を行います。</p>													
2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H29年度以降の行財政改革の推進</th> <th>該当する主な行革指針の具体的項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10"> <p>文化芸術推進市民会議と文化振興施策推進委員会の連携を通じて、市民、事業者・団体と市が課題や情報を共有することで市民の声が反映された施策の推進に努めるとともに、各主体が新たな事業や取組を実施する機会を提供します。</p> <p>今後は、市史編さん室の機能や史料を円滑に保存・活用できるよう、効率的な組織運営を目指します。</p> </td> <td>1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進</td> </tr> <tr> <td>4-1 効率的な組織運営</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table>	H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目	<p>文化芸術推進市民会議と文化振興施策推進委員会の連携を通じて、市民、事業者・団体と市が課題や情報を共有することで市民の声が反映された施策の推進に努めるとともに、各主体が新たな事業や取組を実施する機会を提供します。</p> <p>今後は、市史編さん室の機能や史料を円滑に保存・活用できるよう、効率的な組織運営を目指します。</p>	1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進	4-1 効率的な組織運営								
H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目													
<p>文化芸術推進市民会議と文化振興施策推進委員会の連携を通じて、市民、事業者・団体と市が課題や情報を共有することで市民の声が反映された施策の推進に努めるとともに、各主体が新たな事業や取組を実施する機会を提供します。</p> <p>今後は、市史編さん室の機能や史料を円滑に保存・活用できるよう、効率的な組織運営を目指します。</p>	1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進													
	4-1 効率的な組織運営													

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

5 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる市民との協働や文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	内容					
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	提案公募型公益活動支援事業補助の予算を拡充したことによって、採択件数が平成26年度の2件から7件に増加するほか、市立ギャラリーの稼働率が96%に達するなど、市民や団体による主体的な文化芸術活動が活発に行われました。 また、茨木市文化芸術推進市民会議を開催し、市民及び文化関係団体、大学等の連携・交流を図り、協働で文化振興ビジョンを推進する基盤づくりを行うとともに、市民と芸術家・文化芸術団体をつなぎ、芸術への理解を促し、情報を発信する役割を果たす人材の育成に努めました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		市立ギャラリー稼働率	%	→	98	95.7	97(H31)
市民会議の参加者アンケート、SNS記事の好意的な評価数	件	↗	—	18	200(H31)		
提案公募型公益活動支援事業補助採択件数	件	↗	2	7	8(H31)		

1	取組	3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課	中央図書館					
4	目標 (前期基本計画より)	市内には文化芸術活動を行うことができる「場」として、文化施設等が数多くあり、音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えています。さらなる文化振興のためには、鑑賞や発表の機会の充実のため、施設整備を行い、鑑賞や実践の機会を設ける必要があります。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる(文化・観光による魅力向上) 内容 イベント開催等により、気軽に文化芸術に触れる場づくり					
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えるため、適宜、文化施設等の修繕等を行い、鑑賞や発表の機会を確保しました。 平成27年12月末の市民会館閉館に伴い、市民会館を利用されていた方や団体に、市内公共施設や立命館いばらきフューチャープラザの活用を案内・周知しました。 市民ギャラリーには34,485人の入場が、また、文化振興イベントには19,066人の参加があり、多くの市民が文化芸術にふれることができました。 「まちなかアートツアー」を「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」と連携して実施し、30人の市民に芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供しました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		市立ギャラリー入場者数	人	→	39,002	34,485	39,000(H31)
文化振興イベント参加者数	人	↗	20,924	19,066	21,000(H31)		
まちなかアートツアー参加者数	人	→	20	30	30(H31)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる(文化・観光による魅力向上)	内容	若手芸術家の育成・活動環境の形成			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		a	市民自らがさまざまな文化芸術活動に取り組み、定期的な公演や大会などに参加しました。また、「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」を開催し、若手芸術家の育成に努めるとともに、優れた作品をクリエイティブセンターに設置し、市民に身近に感じてもらう機会を提供しました。川端康成文学館俳句コンクールの学生応募者数は、俳人・坪内稔典氏を講師に迎えたことによって、平成26年度の722件から平成27年度の1,381件に増加しました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	722	1,381	1,400(H31)
「HUB-IBARAKI ART」発表会(関連イベント)参加者数	人	→	20	20	20(H31)		

1	取組	3-3-4	★歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目標 (前期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鑄型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる(文化・観光による魅力向上)	内容	貴重な文化財の市への移管促進			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		a	キリシタン遺物であるメダイ8点の高精度複製品を製作し、キリシタン遺物史料館企画展においてH28.3.2より公開しています。また、同館にて放映している「隠れキリシタンの里」紹介DVDの英語版も完成し、海外からの来館者への対応が向上しました。市内の歴史的建造物調査においては、市内寺社186件すべての予備調査が完了しました。H28年度の本調査に向けて、対象の絞り込みを行うなど準備中です。埋蔵文化財発掘調査による出土遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しており、その成果に基づく報告書も刊行します。『新修茨木市史』「通史2(近世)、3(近現代)」を次年度中に発刊するため編さんを進め、次年度での全巻刊行終了を目指します。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	2,692	2,815	—

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 庄田 哲也	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	<p>“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にする気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。</p> <p>また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持てるブランドが形成されており、市内外に情報が発信されています。</p>					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	内容					
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	<p>川端康成文学館開館30周年を記念し、生誕月記念企画展や市立ギャラリーで館蔵品展を実施するなどを通じて、茨木市における文化の特色として川端康成文学館を周知しました。</p> <p>年間入場者が平成26年度の8,514人から7,258人に、夏休み企画展の入場者も平成26年度の1,126人から746人に減少していることから、市民及び市内外の方に積極的に周知していくほか、文学館に足を運んでもらえるような魅力的な企画や展示を実施する必要があります。</p>				
			<p>a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ</p>				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		川端康成文学館入場者数	人	↗	8,514	7,258	8,550(H31)
川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	1,126	746	1,200(H31)		

6 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～5に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する
2	学識経験者	立命館大学経営学部 肥塚 浩 教授	
3	意見等	<p>・「施策の現状と課題」において現状認識と課題設定が概ね適切になされており、一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。</p> <p>・なお、総合評価の評価理由、平成28年度の施策の進め方、平成29年度以降の施策の方向性、平成29年度以降の行財政改革の推進の記述の表現は分かりやすい。</p> <p>・5つの取組の評価のうち4つは概ね適切であると考えます。ただし、取組3-3-2については、参考指標「市立ギャラリー入場者数」がかなり減少しており、「文化振興イベント参加者数」も若干減少していることについての評価は甘いのではないかと。前者は現状維持方向を目指していることに対して大幅に減少している要因と課題、後者は増加を目指しているが減少している要因と課題について明記すべきだと考える。</p>	

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	茨木市の自然、歴史、文化、地域で生み出される特産品など豊富で魅力的な観光資源を最大限に活用し、市内外の人が訪れて「楽しい」と思ってもらえるよう、観光資源をつなぐ取組を推進します。さらに、観光協会と連携し、幅広い年代に応じた効果的な情報発信を行い、わがまちに誇りを持てる、観光をいかしたまちづくりを進めます。			
4	担当課	主担当課 (記入者)	部 名	課 名	課長名
		関連課	産業環境部	商工労政課	徳永 嘉朗
		関連課	北部整備推進課		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-4-1	★観光資源の発掘とネットワーク化の推進		
		3-4-2	観光情報の発信を強化		
		3-4-3	★官民協働で観光事業を推進		

2 H27年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(施策の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)					
2	<p>北部地域エリア内の回遊性を高めるため、北部地域エリアガイドBOOK「いばきた」を北部地域の主要な施設や店舗において配布し、当該地域における他施設等への立ち寄り需要を喚起するとともに、「安威川ダムカレー」の販売を支援するなど、北部地域の魅力情報発信に取り組みました。</p> <p>地元金融機関が主催する北摂広域連携会議に参画し、広域的な観光ネットワーク化の構築を検討しました。今後も引き続き、北摂関係各市との連携強化に努めます。また、本市のホームページ等を活用し、積極的に観光イベントの情報発信に取り組みました。</p> <p>茨木市観光協会をはじめ、民間の団体と協働して観光事業に取り組みました。中でも、「茨木フェスティバル」や「いばらき光の回廊～冬のフェスティバル～」では、前年度を大幅に上回る集客数を動員しました。また、茨木音楽祭、茨木麦音フェストなど「地域魅力アップイベント創出育成事業」で支援している民間団体主催のイベントの集客数も増加しており、誘客力のあるイベントが実施されています。</p>				

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる

3 H28年度の施策の進め方

	<p>北部地域の魅力を高めるため、観光を一つの視点として、既存資源と安威川ダムの周辺整備などにより新たに生まれる資源との連携方策や、地域で活動する組織・人との関係についてデザインを描きます。</p> <p>また、多くの市民で賑わう多彩なイベントが催されるよう、「地域魅力アップイベント創出育成事業補助制度」を改編し、引き続き民間主導イベントの継続・発展を支援し、観光行政の振興を図ります。</p> <p>鉄道事業者と沿線の自治体が協働し、地域の魅力発信を目的として実施している「阪急京都沿線観光あるき」については、新たな観光情報の提供と参加者の増加を図るため、コースの見直しを行います。</p> <p>また、平成28年度から2か年に亘っては、市内外の住民の本市に対する観光イメージやニーズ、課題等を把握するため、「資源活用・地域経済活性化実態調査」を実施し、地域経済活性化に繋がる施策の検討につなげます。</p>
--	--

4 今後の進め方

H29年度以降の施策の方向性												
1	<p>既存資源や今後整備される「北辰中学校跡地」や「安威川ダム周辺」など、北部地域全体を総合的にプロデュースし、民間活力を導入を促しながら集客力を高めます。</p> <p>また、「資源活用・地域経済活性化実態調査」を活用し、本市に訪れる観光客のニーズの把握、現行の「観光情報の提供のあり方」の問題点の整理を行い、有効かつ効果的な観光情報の発信に努めます。また、観光情報の提供にあたっては、行政のみならず、観光協会や民間のイベント主催団体などとの連携・協力を図るとともに、国・府などの支援制度を十分活用し、財源の確保に努めます。</p>											
2	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">H29年度以降の行財政改革の推進</th> <th style="width: 50%;">該当する主な行革指針の具体的項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8"> <p>各部課単位では、対応が困難な組織横断的な課題は、政策推進会議などの活用等により、柔軟かつ機能的に対応するとともに、広域的な見地からの対応が必要な課題は、府や他の市町村との連携、協力関係の充実を図ります。</p> <p>市民、事業者、大学など、さまざまな媒体を活用して、観光情報のほか、誘客効果につながる地域のタイムリーな話題を発信します。</p> <p>市民意識調査を活用し、その情報を整理、分析することで、市民の声が反映された施策の展開につなげるものとします。</p> </td> <td>1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進</td> </tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </tbody> </table>	H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目	<p>各部課単位では、対応が困難な組織横断的な課題は、政策推進会議などの活用等により、柔軟かつ機能的に対応するとともに、広域的な見地からの対応が必要な課題は、府や他の市町村との連携、協力関係の充実を図ります。</p> <p>市民、事業者、大学など、さまざまな媒体を活用して、観光情報のほか、誘客効果につながる地域のタイムリーな話題を発信します。</p> <p>市民意識調査を活用し、その情報を整理、分析することで、市民の声が反映された施策の展開につなげるものとします。</p>	1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進							
H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目											
<p>各部課単位では、対応が困難な組織横断的な課題は、政策推進会議などの活用等により、柔軟かつ機能的に対応するとともに、広域的な見地からの対応が必要な課題は、府や他の市町村との連携、協力関係の充実を図ります。</p> <p>市民、事業者、大学など、さまざまな媒体を活用して、観光情報のほか、誘客効果につながる地域のタイムリーな話題を発信します。</p> <p>市民意識調査を活用し、その情報を整理、分析することで、市民の声が反映された施策の展開につなげるものとします。</p>	1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進											

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる			

5 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-4-1	★観光資源の発掘とネットワーク化の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 徳永 嘉朗	
3	関係課	北部整備推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	市の観光資源をいかした多彩な企画が催されています。また、豊かな自然をいかし、各所でもぎ取り園など農業関連イベントが開催され、多くの市民で賑わっています。 新たに整備された観光資源ネットワークが市民に周知され、多様なイベント・企画によって世代性別を問わず訪れた人々で賑わっています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる(文化・観光による魅力向上)	内容	既存観光資源のネットワーク化と新しい資源の創出			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	北部地域エリアガイドBOOK「いばきた」を北部地域の主要な施設や店舗において配布し、他施設等への立ち寄り需要を喚起するとともに、「忍頂寺スポーツ公園」で「安威川ダムカレー」を販売するための取組を支援し、北部地域エリア内での回遊性を高めるために取組みました。また、地元金融機関が主催する北摂広域連携会議に参画し、広域的な観光ネットワーク化の構築を検討しました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		「阪急京都沿線観光あるき」参加者数	人	↗	41	36	60(H31)
「いばらき観光ウォーク」参加者数	人	↗	402	551	600(H31)		

1	取組	3-4-2	観光情報の発信を強化				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 徳永 嘉朗	
3	関係課	北部整備推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	積極的な情報発信により、イベントや企画が多くの人で賑わっています。 観光に訪れようとする市内外の人たちが、容易に必要な情報を取得できる環境が整っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)		内容				
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	北部地域エリア内での回遊性を高めるため、北部地域エリアガイドBOOK「いばきた」を北部地域の主要な施設や店舗において配布し、他施設等への立ち寄り需要を喚起するとともに、「忍頂寺スポーツ公園」で「安威川ダムカレー」を販売するための取組を支援するなど、情報の発信に努めました。 また、本市のホームページ等を活用し、積極的に各種イベントの情報発信を行いました。 今後は、情報発信媒体の広がりを踏まえ、事業者や団体等との連携を広げ、効果的な情報発信に努めます。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		観光協会ホームページのアクセス数	件	↗	220,000	240,000	250,000(H31)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-4-3	★官民協働で観光事業を推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永 嘉朗
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民や関係団体が主体的に加わるかたちで観光の振興が進められ、まちが活性化し、賑わいが創出されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる(文化・観光による魅力向上)	内容	イベントなど官民協働での観光まちづくり			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	茨木市観光協会をはじめ、官民協働で実施した「茨木フェスティバル」、「いばらき光の回廊～冬のフェスティバル～」では、前年度を大幅に上回る集客数を動員しました。 また、茨木音楽祭、茨木麦音フェストなど「地域魅力アップイベント創出育成事業」で支援している民間団体主催のイベントの認知度も向上し、定着しています。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
	主要観光イベントの集客数	人	↗	342,000	756,000	800,000(H31)	

6 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～5に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる
2	学識経験者	立命館大学経営学部 肥塚 浩 教授	
3	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」において現状認識と課題設定は概ね適切になされており、一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・取組3-4-1の参考指標「阪急京都沿線観光あるき」は平成27年度は36人と前年度より5名減少しているが、そのことへの言及がないのと、平成31年度の目標値が60人と極めて少なく、そもそも参考指標として適切であるとは考えられない。 ・取組3-4-3は評価内容および参考指標の実績の両方から見て、取組の評価は「b」ではなく、「a」が妥当であると考えます。 ・行財政改革の推進についての記述は、この項目に相応しいものになっておらず、記載内容は不十分であると考えます。 	

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	国内外の姉妹都市を中心とした市民レベルの交流を促し、他地域の文化の理解を深めるとともに、さまざまな分野での文化活動の交流を図ります。さらに、市民の異文化理解活動を支援し、国籍を超えた多彩な交流を進めます。			
4	担当課	主担当課 (記入者)	部 名	課 名	課長名
			市民文化部	文化振興課	庄田 哲也
		関連課			
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-5-1	都市間交流の促進		
		3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備		

2 H27年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(施策の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)					
<p>茨木市国際親善都市協会と密に連携し、平成27年度に姉妹都市提携35周年を迎えたミネアポリス市への市代表团及び市民グループの派遣、ミネアポリス市代表团及び市民訪問団の受け入れを行ったことを始め、国内外の姉妹友好都市との訪問団の派遣・受け入れや子どもの絵画・書の交換などの交流事業を実施しました。現在まで事業を継続して進めてきたことで、事業参加者からは、お互いへの関心・相互理解が深まったとの声が多く聞かれました。今後も、こうした事業が互いの歴史や文化を発見・再認識する機会となるよう、交流を継続して進めていく必要があります。</p> <p>本市で生活する外国人への支援については、日本語を母語としない外国人が生活しやすいよう、留学生の多数在籍する大学等へ聴き取りを行い、生活ガイドブック(英語版・中国語版)の配布や交流イベントの案内など、各種情報提供を行いました。生活ガイドブックは、市役所の窓口や市内大学等で約700部(英語版・中国語版合計)を配布し、必要な行政情報を在住外国人に提供し、生活環境の向上に努めました。また、茨木市国際親善都市協会と連携し、在住外国人に日本語を教えるボランティア活動を支援しました。しかし、行政情報のうち多言語化されているものの情報量は少なく、在住外国人への十分な情報提供ができていないとは言えず、より暮らしやすい環境を整備していく必要があります。</p> <p>外国人の生活支援だけでなく、多様な国籍・言語・文化の人々がお互いを理解しあうことで日本人も外国人も住みやすいまちになることを目指し、茨木市国際親善都市協会と連携し、青少年を対象とした英語スピーチ大会、JICA(独立行政法人国際協力機構)行政研修生の受け入れ、市民と在住外国人との交流の機会となるイベントや市内留学生等のホームビジットの受け入れ等、多岐にわたる異文化交流事業を進めてきました。今後、本市でも日本全体でも在住外国人増加が見込まれる中、これらの事業から得られる成果をより多くの市民と共有するため、事業内容や発信方法などを検討し、異文化へのいっそうの理解を進める必要があります。</p>					

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる

3 H28年度の施策の進め方

茨木市国際親善都市協会と連携し、国内外の姉妹都市等と、相互の歴史・文化への理解を深める交流事業を引き続き進めます。歴史文化姉妹都市提携から3年目になる竹田市については、竹田市と茨木市のゆかりや魅力を発信するためのフリーペーパー「竹田と茨木」実行委員会と共にフリーペーパーを作成・発行し、竹田市の魅力を広く市民に周知し、訪問者の増加を目指します。

さらに青少年を中心としたスピーチ大会、市内在住の外国人との交流や在住外国人への日本語教室等を運営補助する茨木市国際親善都市協会を支援するとともに、外国人住民に必要な情報をより届けやすくするため、現在配布している生活ガイドブック(英語版・中国語版)の内容を新しいものに更新して発行し、行瀬情報の多言語での提供を充実します。

在住外国人への情報発信の方法、行政窓口での手続きの際に日本語が理解できない市民に対する言語支援や、地域との関わり方について、他自治体の取り組みの研究や関係団体等への聞き取りを行い、本市の状況に合った環境整備の促進方法を検討します。

異文化理解の推進については、留学生の多く在籍する市内大学との連携や、交流イベント等の周知方法について新たにフェイスブックでの発信を行ったり、チラシの配布先を増やすなどの工夫をし、より多くの市民に情報が伝わり、事業の参加者及び関心を持つ人が増加することを目指します。

4 今後の進め方

H29年度以降の施策の方向性	
1	<p>国内外の姉妹都市等と、相互の歴史・文化への理解を深める交流事業を多様な分野で引き続き進めるため、茨木市国際親善都市協会と連携・協働することにより、民間交流を推進します。</p> <p>青少年を中心としたスピーチ大会、市内在住の外国人との交流や在住外国人への日本語教室等を運営補助する茨木市国際親善都市協会を引き続き支援します。</p> <p>市内に在住する外国人への情報発信の方法や、各種行政手続き時の言語支援など、多様な文化・国籍の人々が生活しやすい環境づくりを進めるため、茨木市国際親善都市協会等の民間団体と連携を図ります。</p> <p>本市の具体的な課題や在住外国人のニーズ等を把握するためアンケートの実施を検討するなどし、他自治体の取り組みの研究成果と合わせ、さらなる環境整備を図ります。</p>
H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目
2	1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進
<p>茨木市国際親善都市協会等の民間団体を支援することにより、各姉妹都市等との交流活動の活性化を図ります。茨木市国際親善都市協会等の民間団体との協働で、市内に在住する外国人が生活しやすく、また多様な文化・言語・国籍をもつ人が暮らしやすい環境を整備します。</p>	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる			

5 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-5-1	都市間交流の促進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民や関連団体等との連携により、交流が活性化し、さまざまな「つながり」が生まれています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内容			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	姉妹都市提携35周年を迎えたミネアポリス市への市代表团及び市民グループの派遣、ミネアポリス市代表团及び市民訪問団の受け入れを行ったのを始め、国内外の姉妹友好都市との訪問団の派遣・受け入れや子どもの絵画・書の交換などの交流事業を実施しました。現在まで事業を継続して進めてきたことで、事業参加者からは、お互いへの関心・相互理解が深まったとの声が多く聞かれました。今後も、広い世代の市民が都市間交流を互いの歴史や文化を発見・再認識する機会とできるよう、交流事業を継続して進めていく必要があります。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		宿泊施設利用補助制度利用者数(小豆島町・竹田市)	人	↗	568	463	630(H31)
子どもの絵画・書の交換事業(茨木市からの送付数)	人	→	78	95	95(H31)		

1	取組	3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	庄田 哲也
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市内に在住する外国人が暮らしやすく、また、外国人訪問客が周遊しやすい環境が整っています。市内に住む人々が国籍を超えて交流しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)			内容			
6	H27年度末現在の取組の現状と課題	取組の評価	評価理由(取組の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)				
		b	留学生の多数在籍する大学等へ聴き取りを行い、生活ガイドブック(英語版・中国語版)の配布や交流イベントの案内など、各種情報提供を行うとともに、茨木市国際親善都市協会と連携し、在住外国人に日本語を教えるボランティア活動を支援するなど、本市人口の約1%を占める在住外国人の生活環境の向上に努めました。また、青少年を中心とした英語スピーチ大会、JICA(独立行政法人国際協力機構)研修の受け入れ、市民と在住外国人との交流の機会となるイベントや市内留学生等のホームビジットの受け入れ等、異文化交流を進めてきました。今後も在住外国人がより暮らしやすい環境整備を進める必要があります。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H26年度	H27年度	
		交流事業参加者数	人	↗	1,847	1,678	2,000(H31)
生活ガイドブック配布数	冊	↗	-	700	1,000(H31)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる

6 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～5に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる
2	学識経験者	立命館大学経営学部 肥塚 浩 教授	
3	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・取組に関して一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考え。ただし、「施策の現状と課題」と「平成29年度以降の施策の方向性」の叙述は、国内における都市間交流についての記載がなく、国際的な都市間交流と地域国際化に関する叙述のみになっており、説明文章としては不十分である。 ・取組3-5-1の参考指標「宿泊施設利用補助制度利用者数」及び取組3-5-2の参考指標「交流事業参加者数」は平成27年度は36人と前年度より減少しているが、評価においてそのことへの言及と課題についての言及がなく、不十分である。 ・行財政改革の推進についての記述は、この項目に相応しいものにはなっておらず、記載内容は不十分であると考え。 	